



地域の「家守り棟梁」になりたい社長が届けます...

# ジェントル通信

10月号

【発行者】

株式会社ジェントルワーク

【本 社】東大阪市若草町7-9

【箕面店】箕面市稲2-2-36

TEL: 072-200-2215

【発行日】 2025年10月1日 Vol.53

こんにちは。笠松です。

長かった夏も、もう終わりっ！と言ってもまだまだ日中30℃を超える日が続きそうです。

とはいえかなり涼しくなってきた、過ごしやすくなりましたねっ！現場の職人さんも働きやすい環境です。



## ジェントルワークが出来た理由

私は大工として26歳のころに独立し、それから約10年間、新築戸建て・マンション・店舗の下請け大工として働きました。

新築着工棟数は平均で年間20棟近く建てていたので計算するとかなりの数になります。

当時は建売住宅の受注がとても多かったため、お客様が現場を見に来られることはなく、元請けの工務店もあまり来ない…。誰も見に来ない現場で図面とにらめっこしながら黙々と作業をする日々。

お客様の要望や家族構成は分からないものの、図面記載されている窓の高さやドアの方向、収納の用途や使い勝手など、実際造っていくとそれでも変更した方が良い部分があることに気付くことも多かった。元請業者に連絡すると

「大工さんに任せます」

の一言で終わることも多々あり、そういった類のこと何年も続くと

「お客様の声が直接届かない家を建て続けることの虚しさ」

を感じるようになった。私以外にも本来の目的を見失いそうになっている職人さんはいっぱいいるんじゃないのか？とも思うようになった。

「建売システム」は、お客様にとっては安く早く家を手に入れられ、大工にとっては安定的に仕事ができるというメリットはあるけれど、結果「実際住んでみると住みにくい家」だったら、お客様も大工も結局本当に幸せにはなれないよな…と日に日に疑問が募っていくばかり。

「本当にいい家とは？お客様の満足とは？」  
「職人さんにとってやりがいのある仕事とは？」  
を自問自答しながら家を建て続け、10年がたった。

このまま、大工をやっているでもいいのか…

そこで、大工として家を建てるのが大好きだった昔の自分を取り戻すべく、「工務店を自ら営む！」と35歳のころに一大決心。（現在は43歳）

私が真ん中に入って、現場で働いていてくれている職人さんの声にも耳を傾け、お客様の希望を家にしっかりと反映させる。

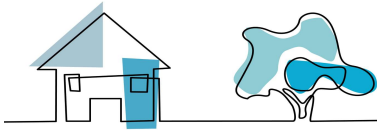
お客様と職人さんと私が、距離の近い工務店。

それがジェントルワークです。

日々の工事を  
アップしています



フェイスブック



## 今月のつぶやき

### 大阪万博エピソード☆シ

先月、家族で大阪万博へ行ってきました。予想通りの大混雑でなんとその日は来場者数21万8130人！

過去最多記録だったそうです。

容赦なく照り付ける太陽の下を歩き続け、気づけば2万歩。普段は現場で汗を流している私ですが、万博の広さは別格。体力には自信があるはずなのに子供たちより先に足腰が悲鳴を上げてしまいました。(笑)



最後の力を振り絞り向かったのは、会場のシンボル「大屋根リング」

見晴らしは最高で風も気持ち良かったです…3分の1も行かないところで私の体力は限界を迎え、「もう帰ろうやぁ」と言おうとしたその時、目の前に現れたのは「巨大ガンダム！」

ガンダムなんて子供たちは知らない世代なのにテンション爆上がりで、私の帰りたいという意見は通るはずもなく、足を引きずりながら渋々ついていく事になりました。(泣)



約1時間待ちの  
最後にお土産  
さんに向かう  
約1時間待ち  
の行列が…

それにしても、どの建物も規模が大きく細部まで作り込まれていて、「壊すのはもったいない」と感じます。職人さん・設計者・工事に関わった人たちのことを考えると、どれだけ大変だったのかが大工の僕には容易に想像でき、建築目線で建物を見て回ると、尚更テーマパークや展示施設として活用できないものか…。

まるでリフォームや建替えをする時の「まだまだ使えるのに…」と考えるお客さんの気持ちに重なるようでした。パビリオンは残念ながら解体されるでしょうけど、住宅の場合は「まだ使える部分」と「新しくすべき部分」を見極めて修繕することで、建物はそのまま残しつつ、快適に永く住み続けられます。

壊して新しくするだけが正解ではなく「これからの暮らしや、次の使い方」を考えることが重要だと万博の建物を見ながら改めて感じました。